平成23年度 鹿児島県児童福祉施設職員並びに子育て関係者合同研修会

主催　財団法人こども未来財団・鹿児島県児童養護協議会

こども未来財団の助成により、今回で3回目となる財団と県児童養護協議会との共催の研修会が、県内の児童養護施設・情緒障害児短期治療施設・児童自立支援施設・乳児院・里親・母子生活支援施設・児童相談所で業務に携わる職員並びに子育て支援関係者など約120人の参加のもと、1月13日(金)に鹿児島市の会場で開催されました。

今回は「変わりゆく児童養護への模索～援助ネットワークの構築に向けて～」というテーマで、2つの講演とパネルディスカッションの内容で、時期にあった有意義な研修会が行われました。

主催者挨拶：東 泰秀 氏（こども未来財団 総務部長）

講演Ⅰでは現在、厚生労働省で議論がされている「社会的養護の将来像」について、社会的養護専門委員会のメンバーである相澤仁 氏(国立武蔵野学院院長)から、その動向についてポイントを絞った詳細なお話しが伺えました。

引き続き、社会的養護のあり方が見直されている昨今、県内の施設や機関の現状や課題を共有し、今後の県内の児童福祉のネットワークのあり方を探るため、「鹿児島における児童福祉ネットワークの現状と課題」をテーマに、パネルディスカッションをⅠ部とⅡ部に分けて行われました。

Ⅰ部では、児童相談所・児童養護施設・乳児院・里親の各現場からの発題があり、Ⅱ部では、Ⅰ部の発題を受け、相澤氏にもコメンテーターとして参加いただき、議論を深めました。

今回のパネルディスカッション方式で各施設・機関が会すことは、児童養護協議会の研修会では初めての取り組みとなり、今後のよりよき連携や協働につながる契機になりました。

講演Ⅰ：相澤 仁 氏
（国立武蔵野学院 院長）

パネルディスカッション：児童相談所・児童養護施設・乳児院・里親の各現場から発題

最後に講演Ⅱでは、私どもが日頃対応に困っている「性的虐待を受けた子どもの理解と対応」について、奥山 眞紀子 氏(国立成育医療研究センター こころの診療部長)から、子ども本人への対応や、子ども集団、施設全体としての対応について有意義なお話しが伺えました。

今後も社会的養護に関わる私たちが、施設や里親のもとで暮す子どもたちのみならず、地域の子育て支援のエキスパートとして活動していくことを確認し閉会いたしました。

講演Ⅱ：奥山 眞紀子 氏（国立成育医療研究センター こころの診療部長）